

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン・イスラム共和国

日付：2020年4月24日

報告書名：平成30年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

平成30年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

2020年4月24日

事業名	初等教育改善事業 Project for Improvement of Primary Education	
事業対象地	アフガニスタン カブール市およびナンガハル県	
事業期間	事業期間：2019年1月26日～2020年1月25日	
公的資金種別	平成30年度 日本NGO連携無償資金協力	
総支出・返還金 (未確定)	総支出予定額：94,611,920円（返還予定額：2,127,343円）	
プロジェクト目 標および、その達 成度	カブール市およびナンガハル県の児童の学習環境が改善されることを目的に事業を実施した。本事業を通して、432人に安全で快適な学習環境を整備することができ、5,610人の児童と789人の教員が良質な図書にアクセスできる環境を整備した。ナンガハル県では、ジャララバード市内の子ども達のべ40,397人に対して、学校外教育へのアクセスを確保した。また不就学児童40人が公立小学校の第一学年と同様のカリキュラムを修了することができた。これらのことから、目的であるカブール市およびナンガハル県の児童学習環境の改善に資することができた。	
実施内容 概要	(1) 校舎建設活動 カブール市内ゾーン12にあるハサンザイ小学校に対して、8教室ならびに4教室の校舎1棟および水洗トイレ5室1棟を建設した。	受益者数 421人の児童
	(2) 学校図書館改善活動 14校（カブール市内4校、ナンガハル県内10校）に、学校図書室を設置した。各対象校に対して、本棚、机、椅子などの家具を供与し、日本から輸送した図書10タイトル50冊を含む、合計908冊を配架した。 「一般教員研修」と「図書室担当教員研修」をそれぞれ2回実施した。 対象校28校において、移動図書館活動を合計133回、1校あたり約4.7回実施した。	受益者数 28校 延べ5,610人の児童 延べ789人の教員
	(3) 子どもの学校外教育活動 ジャララバード市内で運営する子ども図書館において、読書、絵画・工作、詩、縫製といった教室を、時間割を決めて実施し、これらを通して市内の児童に対して学校外教育の機会を提供した。  また祝日や子どもの誕生日を祝う特別行事も月1回実施した。	受益者数 延べ40,397人

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン・イスラム共和国

日付：2020年4月24日

報告書名：平成30年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

	<p>学校に通えていない不就学児童を対象に、小学1年生レベルの読み書き・計算を学習内容の中心とした特別教室を開講し、40人が参加し、4月から9カ月のコースを修了した。</p>	
成果	<p>1. 校舎建設活動</p> <p><b><u>13クラス、421人の児童が安全で快適な教室で学習できている。</u></b></p> <p>新学期が始まり、児童登録が完了した頃にモニタリングを実施するため、実績は未確認である。しかしながら、それぞれの教室へ3人掛けの椅子・机を18セット供与しているため、432人（3×18脚×8教室）の児童が安全で快適な教室で学習できるようになる見込みである。</p> <p>2. 図書館改善活動</p> <p><b><u>対象校28校において、1校あたり300冊/月以上の図書が児童に貸し出されている。</u></b></p> <p>モニタリングの結果、1校あたり月平均267.6冊（目標比89.2%）の貸出冊数を確認した。これらの実績値は、計画時の成果指標に達していない。主な理由は、大統領選挙に伴う情勢不安、治安の悪化である。</p> <p>2019年9月末に行われた大統領選挙の前後には、これの妨害を目的としたテロ行為が増加していた。教育機関が攻撃対象となるケースも見られたため、社会情勢や治安などを考慮しながら活動を実施した。そのため学校によっては、図書室の設置、研修の実施、モニタリングといったそれぞれの活動が効果的なタイミングで実施できないことがあった。昨年以前に図書室設置を終えていた学校に関しては、この影響が少なく貸出冊数が成果指標を超える学校が多くあったが、今年設置対象校の14校では、選挙前後の活動を控えたため、研修後のモニタリングの調整に時間を要し、研修とそのフォローアップの間隔が空いてしまった。</p> <p>3. 子どもの学校外教育活動</p> <p><b><u>①1日あたり140人の児童が学校外教育活動に参加している。</u></b></p> <p>事業期間を通して、子ども図書館の1日あたりの利用者は166人であり、この指標を上回っている。2016年末以降は、パキスタンからの帰還民や国内避難民の子ども利用者が増加傾向にあるが、加えて身体的・精神的な障がいをもった子どもたちや、路上で働きながら家計を支える子どもたちなど、様々な背景を持つ子どもたちが利用している。</p> <p>ジャララバード市内の治安も不安定ではあるが、公教育にアクセスできない子どもたちに教育の機会を提供することができた。</p> <p><b><u>②不就学児童35人が教育の機会を得ている。</u></b></p>	

団体名：シャンティ国際ボランティア会

国名：アフガニスタン・イスラム共和国

日付：2020年4月24日

報告書名：平成30年度日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

	<p>4月から9カ月間に渡り、不就学児童を対象とした特別教室を開講した。9歳から12歳の不就学の子どもたち40人が参加し、全員がこれを修了した。これらのことから、35人以上が教育の機会を得られており、成果指標を上回っている。特別教室修了後、県教育局が実施する編入テストに合格すると公立小学校第二学年への編入が可能となる。例年、多くの子どもたちが受験し、編入しているため、今年の修了児童に関しても同様に公立小学校への編入が期待されている。</p>
課題と対応策	<p>前年の下院選挙に引き続き、大統領選挙が執り行われた。これに起因するテロ攻撃が増えており、外国の支援団体などがターゲットになるケースも多く発生した。情勢を注視しながら活動や事務所運営を行う必要があった。</p> <p>治安悪化のため、邦人スタッフは事業地への派遣は行わなかった。その代わりに、日本に現地スタッフを招へいし、調整会議を3度実施した。</p>